



鶏 けいめい 鳴

2007年11月11日(第7号)

イエスの言葉

「七回どころか

七の七十倍までも赦しなさい」

聖書(マタイ福音書18章22節)

牧師 河合裕志

ある時ペトロがイエスに言った。「主よ、兄弟が私に対して罪を犯したなら何回赦すべきでしょうか。七回までですか。」当時ユダヤ社会では三回までは赦せ、と教えられていた。日本でも「仏の顔も三度」と言ったりする。しかしペトロは三の倍にプラス一の七回の数字を示した。これはスゴイことである。私達であれば一回赦すんだって大変。簡単に人を赦せない。

自信をもって提案したペトロにイエスは、あるいはニッコリしながら上記の言葉を告げた。七の七十倍、それは490回になるが、これはもう「限りなく赦せ」ということ。なんと寛大な教え。しかしこの答えにペトロはあいた口がふさがらなかった。「そんな無茶な」。ペトロの反応はあまりにも当然。イエスはすでにこのことを見越し「仲間を赦さない家来」のたとえを語った。それは王から1万タラント(6千億円)もの借金をした家来が返済不可能となり、これを王が「憐れに思って彼を赦し、その借金を帳消しにしてやった」という話、更にこの赦された家来が百デナリオン(百万円)貸していた仲間の返済不能を赦さず、これを牢にぶちこんだという話。そしてこの話のオチは王が、この家来の無慈悲なやり口を知って怒り「私がお前を憐れんでやったようにお前も自分の仲間を憐れんでやるべ

きではなかったのか」と言って彼を牢役人に引き渡すのである。

イエスの考えは次にあることは明らか。

「あなた達は神に対しては莫大な返済不能な位の借金=罪がある。これをしかし神は大きな憐れみをもって赦した。だからあなた達も仲間の罪を赦してやれ。何度も何度も限りなく」。神の大きな憐れみ、それは神の子イエスの十字架の死において決定的に示された。神の子の犠牲死、償いにより私達一人一人のうずたかく積まれた借金は帳消しにされた、全ての罪がきれいさっぱり赦された。この感謝に押し出されて仲間をできるだけ気前よく赦して行くのである。

私達はつい心の中で悪いことを考えたり人を傷つけることを口走ったり、更に様々な悪事を日々積み重ねて生きている。これ全て神から見て神への借金・罪とカウントされれば1万タラントにも匹敵しよう。しかし神はイエスの十字架故に思っ切りこれを赦して下さった。この限りなく大きな赦しを忘れずに私達は仲間に、妻や夫、子供達に対して行くのである。

豊かな赦しの思いをもって。

集会案内

主日礼拝：毎日曜日 午前10時15分

こどもの教会：毎日曜日 午前9時

祈祷会：第4日曜日 礼拝後

婦人会・壮年会：第2日曜日 礼拝後

聖書を学ぶ集い：第4水曜日 午前10時

オリーブの会：第3月曜日 午前10時

(読書会を中心に身近な問題を話し合っています。)